

ブライダル大手「ノバレーゼ」、和歌山県初進出

紀州徳川家ゆかり、400年以上の歴史ある日本庭園で結婚式場開業、城下町ウエディングを完全貸し切り型、敷地内の料亭「あおい茶寮」の日本家屋は待合室に活用

披露宴の生中継サービス、ニューノーマル見据え提供

ブライダル大手の(株)ノバレーゼ(本社:東京都中央区、荻野洋基社長、資本金:100百万円)は、和歌山城の一角であった、紀州徳川家ゆかりの日本庭園で、結婚式場を2022年秋に開業し、和歌山県に初進出します。

日本庭園は、和歌山城の南東に隣接し、同城の築城とともに造られた、400年以上の歴史を誇る名庭です。当社は、東京スカイツリーがすっぽり入る約2100平米の庭とそこにある料亭の日本家屋を生かしながら、2階建ての披露宴会場兼チャペル棟(新館)を敷地内に新設します。

式場名は「葵(あおい)庭園」です。昼夜各1組限定で結婚式を行う完全貸し切り(ゲストハウス)型の婚礼施設として、プライベート感の高さを売りにします。県内には、和のテイストを打ち出したゲストハウス型の会場がない点も強みに、歴史と伝統、日本の様式美に囲まれた“城下町の結婚式場”として、上質さを求める20代後半から30代の大人のカップルをターゲットにします。

施設では、ニューノーマルを見据えた新たな婚礼演出として、披露宴の様子を生中継する動画配信サービスも用意します。

平常時の1組あたりの参列者数は62人で、平均組単価は約380万円を想定しています。

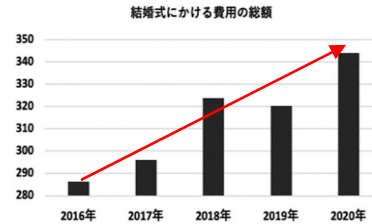
当社は、石川県の金沢市指定文化財「辻家庭園」を結婚式場として残すことに成功しています。式場は、七代目小川治兵衛(植治)の設計とされる回遊式庭園と、敷地内の国登録有形文化財の建物を生かしながら、再生しており、そのノウハウを今回の施設展開に生かします。


結婚式、コロナ禍の低迷から回復の兆し、和歌山は有望市場

婚礼業界は今、コロナ禍の低迷から抜け出し、回復の兆しを見せています。当社の、緊急事態宣言解除後の2021年10月11月の新規来館組数および婚礼の受注件数は、コロナ前の2019年同月比を上回るなど、足元の営業活動は好調です。

ゼクシィ結婚トレンド調査関西(2021年)によると、コロナ禍の影響で結婚式をキャンセルした和歌山県のカップルは6.7%に留まっており、実施(53.4%)か延期(40%)の占める割合が高くなっています。結婚式にかかる費用の総額は、まん延防止の観点による披露宴の規模縮小が影響し253.3万円と落ち込んだものの、これまで和歌山では急増していました。2020年調査の総額は343.9万円と高く、

2016年調査の286.3万円から5年間で57.6万円増になっています。ミレニアル世代は「自分らしさ」を大切にする傾向にあり、フラワーシャワーやアイルランナー(バージンロードに敷くカーペット)といった挙式での演出やウェディングドレスにこだわる方が増え、費用全体が増加傾向にありました。



披露宴・チャペル棟を新築、葵の花をモチーフにしたデザインも

披露宴・チャペル棟の新館は、敷地内西側にあるマンションを取り壊し、跡地に2階建ての鉄骨造を建設します。延床面積は約782米で、1Fに披露宴会場(約149平米)と厨房を設け、2Fをチャペル(112平米)と新郎新婦の控え室等にします。最大収容人数は披露宴会場が110人でチャペルは110人です。広々とした空間で、一般的な規模の結婚式では密にならない環境を整えます。

館内のカーペットは全体的に葵の花をモチーフにしたデザインを採用し、薄紫系の上品な色味がクラシカルな雰囲気をつくれます。外観は瓦色のシンプルな建物で、庭に溶け込むようなデザインです。

バンケットの庭側は全面ガラス張り、新郎新婦越しに名庭広がる

新館の玄関を抜けると、天井高9.1メートルの吹き抜けエントランスが広がります。開放的な空間で、列席者を迎えます。1階の披露宴会場は、庭側を全面ガラス張り(高さ約4m、幅約10m)にします。

メインテーブルの新郎新婦越しに日本庭園が広がる、採光性の高い造りです。

また、庭と会場の間にデッキテラスを設け、中と外を行き来できるようにします。テラスは、新郎新婦が庭から入場するサプライズ演出に使うほか、屋外デザートビュッフェのスペースとして活用します。



チャペルは石に囲まれた空間、和歌山城を築く際の採石場だった歴史をつなぐ

新館2階のチャペルは、壁に石を積み上げたデザインです。庭の始まりは、和歌山城築城時の採石場であったことから、石に囲まれた空間にし、歴史をつなぎます。天井高は最大6.3メートルと高く、12メートルのバージンロードの先、祭壇越しには滝を流します。荘厳な非日常の世界観を演出します。



料亭だった木造建築をリノベーション、大正ロマンな雰囲気

庭園の中央に位置する、料亭として使われていた昭和中期の木造建築(本館)は、大部分を残し、内装を大正時代の「クラシカル×ロマン」をテーマにリノベーションします。

リニューアル後の本館は延床面積312平米です。全ての部屋が庭に面している元々の間取りを生かしながら、ドレスショップやブライダルサロン、列席者の待合ラウンジやドリンクを振る舞うBARカウンターなどを設けます。



内装は、白や木目を基調としたモダンでクラシック感のあるデザインに改装します。

椅子や机、照明などの調度品も「クラシカル×ロマン」に浸れるノスタルジックな物を選定するほか、正面玄関には葵の花を描いた金屏風を設置。漆塗りのアート作品や紀州の梅をモチーフにした飾り物、網代笠(あじろがさ)など小物も活用しながら、随所に歴史や和を感じさせる上品な空間を作ります。

料理は地元食材を使用、“地産地消”のコースを提供

料理は地産地消にこだわります。熊野牛やマグロなど、食材豊富な地のものをふんだんに取り入れた和食と洋折衷のコース料理を提供します。披露宴会場はキッチンを併設しています。窓ガラス越しに調理場をご覧いただけるようになっており、目でも料理を楽しませます。

コロナの状況を見ながら、宴会需要も取り込むほか、クリスマスなどのイベント時にはレストラン営業も計画しています。

披露宴を生中継、視聴者用の婚礼料理の宅配も実施、ニューノーマルを見据えたサービス

—披露宴をオンライン中継

「葵庭園」では、ビデオ会議システムを使い、披露宴の様子を生中継する動画配信サービス「WEDDING STREAM (ウエディングストリーム)」(税抜5万円)を、結婚式のオプションプランとして販売します。撮影は、専属のプロカメラマンが、移動性や操作性の高い多機能端末「iPad」を使い行います。入場シーンやチャペルでの挙式、ケーキカットなど、館内の婚礼演出はカメラ(端末)を移動しながら、新郎新婦の臨場感あふれる映像を生配信します。



費用は、カメラマン1人が撮影・配信をする1プラン(税抜5万円)のみのシンプルかつ低価格な商品設計です。披露宴の記録映像をご注文の方には、同2万5000円の特価で提供します。

—オンライン参列者に、料亭の豪華なお弁当を届けるサービスも

オンラインから結婚式に参加する方に向けて、婚礼料理(税抜1万円/1人)を宅配するサービスも用意します。弁当は、当社が広島で運営する料亭「三瀧荘(みたきそう)」が監修。当社のおせち料理を長年、販売してきたお重のノウハウを生かし、味はもちろん見た目に華やかなものを提供します。

料理^{*}は、車エビやタラバガニ、ローストビーフ、鯛の赤飯など16品を詰め合わせた内容で、紅白をあしらった豊かな彩りが、新郎新婦の門出を祝います。結婚式当日に、北海道、沖縄、離島を除く各指定の場所にチルド(冷蔵)で届けます。※会場の婚礼料理と異なり、和歌山の食材を中心に使用するわけではございません



重箱に詰めた見た目に豪華なお弁当で、「オンライン参列者」のお祝い気分を盛り上げます。

開業準備室を和歌山市美園町5に開設

本件の営業拠点となる開業準備室を、ショッピングセンター「和歌山MIO」(和歌山県和歌山市美園町5)の2階に、2022年1月8日(土)開設します。

紀州徳川家ゆかりの庭園について

今回、当社が結婚式場を開業する、紀州徳川家ゆかりの庭園は、明治維新までは和歌山城内の一部であった、由緒正しい庭です。和歌山城を築く際に、この敷地内から紀州特産の青石(緑泥片岩)が切り出されました。中庭や池はその時の採掘によって出来たもので、今でも楔(くさび)を打ち込んだ矢穴を所々に見ることができます。後に造園することを考えてデザインしながら石の採掘がなされたと言います。門前には、紀州藩・初代藩主、徳川頼宣(よりのぶ)が親孝行の大切さを説くために配布した「父母状」[※]の大きな碑(縦1メートル、横2メートル)が建立されています。

※「熊野に父を殺して重罪を自覚しない若者がいる」という事件を聞き、万治3(1660)年正月に領民教育の指針として発布。儒学者の李梅溪(りばいけい)が書いたもので、両親に孝行をし、法を守り、おごらず正直に生きるよう諭す内容

敷地に足を踏み入れると、小川のせせらぎや、小鳥のさえずりが、都心にいることを忘れさせます。

庭園の中心部に位置する日本家屋はしばらく個人宅として使われていましたが、平成6年に料亭「あおい茶寮」として営業を開始。約400年続く庭園を愛でながら食事を楽しめると評判になり、地元はもちろん、県外の観光客や各界の方々が足を運ぶお店になります。

料理は、“何も足さず、何も引かず”をモットーに、「紀州料理」と称する、豊富な海・山の幸の本来の味を引き出すシンプルな内容を提供し、多くの人を魅了してきました。

施設概要

施設名	葵庭園	開業日	2022年秋
住所	和歌山県和歌山市谷町38		
	(開業準備室)和歌山県和歌山市美園町5丁目61和歌山MIO2階 ※2022年1月8日開設		
交通	和歌山駅から車で10分、駅から送迎バスを用意		
営業時間	平日/11:00~19:00 土日祝日/10:00~20:00、定休日/火・水曜		
面積	敷地面積: 2107.61 m ² (637.5 坪)	建築面積: 745.19 m ² (225.4 坪)	
	延床面積: 1151.23 m ² (348.2 坪)	新館バンケット(1F): 149.19 m ² (45.1 坪)	
	新館チャペル(2F): 112.38 m ² (33.9 坪)		
収容人数	バンケット: 着席 110 人	チャペル: 着席 110 人	
駐車場	40 台予定(近隣)	構造	本館:木造、新館:鉄骨造
デザイン	窪田建築都市研究所	電話	0120-948-778 ※開業準備室
HP	https://produce.novarese.jp/aoi-teien/ ※2021年12月23日公開		
賃貸契約	建物を所有する(株)あおいから賃借し、営業します。賃借期間は15年です。		

ノバレーゼ運営店舗数

国内			海外
婚礼施設運営	ドレスショップ	レストラン	フォトウエディングとスパ運営事業
32 施設	21 店舗	6 店舗	1 店舗

本件に関するお問い合わせ先

(株)ノバレーゼ 広報担当:松井 TEL.03-5524-2299 E-mail: t-matsui@novarese.co.jp

または広報事務局((株)Clover PR 内)担当:角田(つのだ)、福本、澤本

TEL.03-6452-5220 070-2834-3177(角田) E-mail: cloverpr@cloverpr.net

※本資料はチャペルのデザインに関する一部を発表時から修正しています(2022.8.24)